

Ⅲ 研究の実際

Internet／Intranet を利用したアンケート集計システムの開発

1 開発の意図

(1) 開発の動機

現在、福島県教育センター情報教育部では福島県内の約1000校の学校に対して、「パソコン活用状況等に関する調査」を行っている。アンケートの作成からデータの処理を行い整理するまでには、大変な手間と時間さらには郵送のための費用がかかっていた。そこで、インターネットを利用してもっと簡単にアンケート集計が行われればと考え、本研究を行うこととした。

(2) 電子メールを使ったアンケート集計の実態

平成9年度に上記調査を電子メールを使って試みた。この方法は、回答用紙の書式を利用者にテキストファイル形式で送信し、入力した回答ファイルを返信してもらうという形式である。各学校からの反響は大きく、問い合わせ件数は60件を超えた。実際に利用した学校数は32校と予想を上回り、ネットワーク利用への期待の大きさが感じられた。ところがこの形式では、利用者側においてはファイル編集の知識が必要であり、アンケートを集計する側でもメールへの対応を一件一件行わなければならない、かなりの時間・労力が必要となった。

(3) 将来性

第15期中央教育審議会の答申や官報速報（時事通信社 平成9年12月24日）によると、2003年度までにはすべての学校がインターネットで結ばれ情報通信ネットワークが確立される。そのため、新しい通信手段としてインターネットを活用したE-Mailの利用法を研究し、具体的な活用の仕方について見通しを持つことは必要であると考えた。

2 開発の目的

インターネットを活用して、簡単にアンケート調査を行うことができ、収集したデータを蓄積・集計処理するシステムを構築する。

3 開発の内容

本研究では、次の4点について配慮しながらシステムの開発を行う。

(1) ホームページの設計

マウスをクリックするだけの簡単な操作で、誰でもアンケートに答えられるようなホームページにする。

(2) 集計条件

インターネットのWWWに接続することによって、メールのアカウントがなくてもどこからでも簡単に回答し発信することができるようにする。

(3) 集計処理システム

発信されたアンケートの回答はサーバに自動的に蓄積し、Excelなどの表計算ソフトを利用して簡単に集計処理ができるようにする。

(4) ホームページの作成

アンケートのホームページは、HTML言語の知識やホームページ作成の経験があれば簡単に作成できるものとし、このシステムが利用しやすいものとなるようにする。また、一度作成したアンケートページをもとに別のアンケートページを作成することが容易にできるわかりやすいものを作成する。

4 開発の方法

本研究では、基本動作の実験として所内にあるUNIXサーバにホームページをおいて、インターネット（イントラネット）で実験を行うこととした。実験においては、ブラウザを次の2つ（Internet Explorer 3.01及びNetscape Navigator 3.0）を選択し、どちらのブラウザでも正しく動作することを目標とした。さらに、福島大学のUNIXサーバにもホームページを作成し、インターネットを使った実験も行う